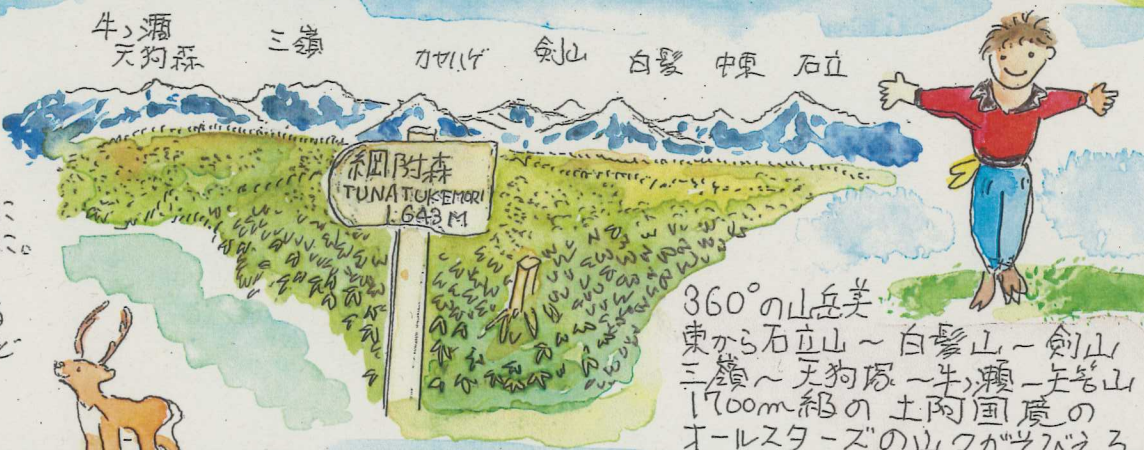


# 綱附森

三嶺から西へ進んだ土阿国境線は地蔵の頭で南に方向を変え、綱附森を立ち上げる。  
西態溪谷の西を固めて豊かな笹の尾根と三方に伸ばすその山容は穏やかで、雄工で登山者を惹きつける何かを持っている。(四国の1000m峰より)



誰もいない  
1,600mの世界



360°の山岳美  
東から石立山～白髪山～剣山  
三嶺～天狗塚～牛瀨～天竺山  
1700m級の土阿国境の  
オールスターズの山々がそびえる。



分水嶺  
綱附森の稜線は降下雨と音の異なりと徳島県側に分ける分水嶺。  
一滴の雨水もどちら側に降りるか？ 注ぎ込む川も海もわかっている。  
自分の人生も日々の行為も分水嶺のくりかえしで今につながっている。  
偶然も必然もくりかえしながら終点の海に向かうんだ。そうやって分水嶺を意識して歩くといいんじゃないかと考える。

この世界を観るために  
この世界を聞くために  
生きている。  
それだけで生きている  
意味はありあまるほどある。



シカの犬群羊に会った。  
22頭まではとぎに数えたが  
30頭近くの犬群羊にと胆を  
振られた。

ササ原の中に  
白い奇岩が点在。  
美しい山岳風景。

道が定かでないほどの  
深いササ原が  
生い茂っている



冬に葉を落とす  
針葉樹の森。  
冬場は樹冠に  
青空が透ける。

フナウジロモミ、ダケカンバ  
などの美しい森林

シカ大型風イナ

ずっと稜線にそって  
歩ける快適コース。  
ささるものがない  
空を見上げながら  
歩けることは幸せ。

ササ原が深い  
(ひざ上くらい)

綱附森  
1,643m  
二等三角点

眼下に大所～ダム湖～香北  
中景に安芸の境 五位森～杉谷～マツ場  
遠景に太平洋まで望む。絶景。  
雄大な眺めを十分に楽しめる。



登山口  
綱附森まで約5km  
熊出没注意看板



カアルフーの詩に「山の彼方の空  
遠く、葉い住むと人のいう」とい  
よく耳にするフレーズ。  
生死の境をもつ人間が不死  
なるもの、永遠なるものへの  
あこがれ。  
これは目に見えるものとして  
自然に静かだが雄大な  
山岳を慕うものであるという。

ササ原の中はシカのはしり(敷道)が  
縦横に見える。  
あじろ頭数が多い。

熊よけ鈴はチリ～ンと  
鳴る高音を出すのが  
効果がある。  
300mから  
聴こえる。

この年あたり「平成最後の」というフレーズがあるけれどこの山行が僕にとっての平成最後の山になった。

冬と春が同居した山行日和。  
雪は昼にはとけて黒い土にしこんでいた。  
この一滴の水は何十、何百回土の中をみがかれて、どこかの泉からこんこんとわき出るんだ。うなむし、鬼おろ、考えろやう。

四国のツキノワグマ  
1996年の時点で四国のツキノワグマは約50頭未満。  
近年の調査では10～20頭ほどしか確認されていない。  
絶滅の危険性がとても高い状態。

こわいけれど  
真黒で神々しい毛をまとうツキノワグマを見てみた。

点と点を結べば線となり  
線と線を結ぶと面がでる  
面と面をつなげば立体となる。  
矢筈峠～綱附森を歩いて  
京柱峠～白髪山までの土阿  
国境がつかえなかった。

参考文献  
「四国の1000m山峰」